

2022 年度第 1 回町田市廃棄物減量等推進審議会 議事要旨

◇日 時：2022 年 5 月 16 日（月）13：15 から 14：45

◇場 所：町田市バイオエネルギーセンター3 階 会議室 3 から 5 及び リモート開催

◇出席者

委 員：山下委員（会長）、江尻委員（副会長）、篠木委員、宮脇委員、富岡委員、鈴木（悟）委員、山崎委員、守谷委員、高橋委員、丸山委員、大平委員、鈴木（康）委員、前田委員

町田市：環境資源部長、循環型施設建設担当部長、環境政策課長、環境政策課温暖化対策担当課長、環境共生課長、ごみ収集課長、ごみ収集課ごみ相談担当課長、循環型施設管理課長、循環型施設整備課長 外

◇傍聴者：なし

<次 第>

1. 議題

「第 2 次一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン」2021 年度および 2022 年度事業計画の確認について

2. 報告

2021 年度のごみ量の推計値について

<資 料>

資 料 1：「第 2 次一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン」2021 年度および 2022 年度事業計画

資 料 2：2021 年度のごみ量の推計値について

別 紙 1：事業計画評価・意見シート

参考資料 1：第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン評価方法の概要

参考資料 2：2021 年度第 2 回町田市廃棄物減量等推進審議会議事要旨

1. 議題

「第2次一般廃棄物資源化基本計画アクションプラン」2021年度および2022年度事業計画の確認について

＜基本方針1について、施策番号1-1-1、1-3-3の評価内容および2022年度の事業計画内容、事前質問シートの内容を取り上げ、環境政策課担当課長から説明＞

《意見》

委 員：1-1-3の情報発信について、YouTubeのアクセス数などは把握しているのか。

環境政策課：町田市公式YouTubeチャンネルに掲載しており、最大のアクセス数は子ども向けの内容の動画で約15,000件であった。通常のアクセス数は、200件から300件程度である。

委 員：1-3-3について、「SNSを見てイベントにきた」とあるが、SNSとは何を指しているのか。また、SNSの発信回数はどのくらいか。

環境政策課：SNSは、Twitter・Instagram・YouTubeを指している。2021年度の発信回数は、合計で約180回である。

委 員：発信回数が180回は少ないのではないかと。発信の回数や頻度が重要になると思うので、効果的な発信を検討してもらいたい。

会 長：情報発信の目標値が「随時」となっているので、定量的な数値目標を設定してもよいのではないかと。

委 員：1-3-1について、生ごみ資源化団体とは何か。大型生ごみ処理機を設置している団体のことか。

環境政策課：大型生ごみ処理機を設置している団体のことではなく、独自に生ごみの処理方法や資源化について活動をしている団体のことである。

＜基本方針2について、施策番号2-1-1、2-2-1、2-2-2、2-3-1の評価内容および2022年度の事業計画内容、事前質問シートの内容を取り上げ、環境政策課長から説明＞

《意見》

委 員：町田市でも燃やせるごみの中に個人情報を含む紙類が含まれているということがわかった。

委 員：2-2-1について、店舗ごとのマイボトル利用回数は把握しているのか。

環境政策課長：店舗数までは確認できているが、その先の分析が十分にできていないため、今後情報収集や分析を行い、取組に反映したいと考えている。

委 員：2-1-1について、家庭用生ごみ処理機等購入費補助制度の予算額の上限金額はいくらか。

環境政策課：予算額の上限金額は、約350万円である。

委員：2-1-1 の家庭用生ごみ処理機を利用した際に出る一次生成物について、どのくらいの量が出ているのか。

環境政策課：出ている量の把握はできていないが、家庭では使い切れていないと予想される。ごみとして出されないよう、検討していきたい。

委員：2-2-1 の給水スポットについて、設置後の利用状況等を教えてほしい。

循環型施設管理課長：現時点では、締結した協定に基づき 2 台の給水器を設置しており、市庁舎と町田市バイオエネルギーセンターに設置している。現時点では、施設内職員の利用が主となっているので、表示等を工夫し、施設に訪れた市民の方にも利用いただけるようにしていきたい。

委員：2-2-1 について、協働する大学がなぜ市内にある大学ではなく、相模原市にある麻布大学なのか。

環境政策課長：町田市では町田市内にある大学だけでなく、近隣にある大学・学校とも大学連携として連携をとっており、その中に麻布大学も含まれている。そのため、町田市では大学連携の中の取組と考えている。

委員：2-2-2 について、2022 年 4 月からプラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（以下、「プラスチック資源循環促進法」とする。）が施行された関係で、変更が予定されている内容はあるのか。

環境資源部長：収集体制の見直しを 2025 年または 2026 年までに実施することを予定しているため、見直しのタイミングに合わせ、収集品目の増加や分類の変更を想定している。施設整備だけでなく、外注等も含めて検討し、プラスチック資源循環促進法に対応していくことを予定している。

委員：2-2-2 の指標①「容器包装プラスチック分別協力率（回収地域）」について、2021 年度実績値の算出方法を説明いただきたい。

環境政策課：組成調査から燃やせるごみ・燃やせないごみに含まれると推測される容器包装プラスチックの量と資源化した容器包装プラスチックの割合を計算し、算出している。

委員：2-2-2 の 2022 年度取組方針・内容にある「回収した容器包装プラスチックのリサイクルについて周知を図る」について、「リサイクル」とは何を指すのか。

環境政策課：「リサイクル」については、分別し、集めたものがどのように回収され、どのように資源化されているのか、ということの周知を図るという意味である。

委員：2-2-1 の給水スポットの設置について、設置を検討している施設を説明い

ただきたい。

環境政策課長：市民の方が利用しやすい体育館や公園などへの設置を検討しており、夏頃までに 20 カ所へ設置することを目標としている。また、5 月 29 日(日)には、F C 町田ゼルビアのホームゲームで「マイボトルキャンペーン」の実施を予定しており、移動式の給水器を用いた啓発を行う予定である。

委員：給水スポットの設置についても、目標値として用いたらどうか。

委員：2-1-1 の「市内で活動する団体や先行自治体等の状況」について、情報収集等を行っている進捗を説明いただきたい。

環境政策課：フードドライブを実施している場所を調査し、周知している段階であり、食材を求めている団体等調査については取り組めていない状態である。

＜基本方針 3 について、施策番号 3-1-1 の評価内容および 2022 年度の事業計画内容、事前質問シートの内容を取り上げ、環境政策課担当課長から説明＞

《意見》

会 長：3-2-1 について、指標①「排出される事業系ごみの削減率」はどのように算出しているのか。

環境政策課：2019 年度と 2021 年度の総ごみ量の実績値を比較し、算出している。

委員：3-2-1 について、2021 年度の目標値「2%削減」に対して実績値が「1.9%削減」という結果ならば、目標を達成しているという評価になるのではないか。また、2025 年度までの目標値については、見直しが必要ではないか。

会 長：行政としての取組を引き続き検討いただきたい。

＜基本方針 4 について、施策番号 4-1-1、4-3-1 の評価内容および 2022 年度の事業計画内容、事前質問シートの内容を取り上げ、循環型施設管理課長、環境政策課担当課長から説明＞

《意見》

委員：4-1-1 の指標②「燃やせないごみに含まれる資源化物の選別精度」について、硬質プラスチックの選別方法及び目標値の 75%の計算方法を説明いただきたい。

循環型施設管理課長：硬質プラスチックの選別方法については、収集された燃やせないごみの中から複数回の手選別や機械選別を使用し、硬質プラスチックを選別している。

目標値については、組成調査から算出した総ごみ量に含まれていると思われる推計値のうち、資源化に搬出した量を計算し、その割合が 75%になることを目標としている。

会 長：2022 年度の取組方針・内容に、「当初計画していたごみ質に近いごみを用意し」とあるが、ごみ質を限定する理由を説明いただきたい。

循環型施設管理課長：町田市では容器包装プラスチックの分別収集を一部の地域（横浜線以南地域）で実施しているため、容器包装プラスチックの分別収集を実施している地域の燃やせないごみで選別精度がどのような数値になるか、検証することを予定している。

委員：4-3-1 について、落ち葉の資源化はどのくらいの量の落ち葉を想定しているのか。また、落ち葉の種類について、家庭から出たものか、街路樹等の落ち葉か説明いただきたい。

環境政策課：これまでは、市内の公園管理部門と連携し、一部の公園の落ち葉をたい肥化する実験を行ってきた。今年度はできるだけ多くの落ち葉入れてもらうよう公園と調整を進めており、200 t から 250 t の落ち葉の資源化を想定している。資源化に適さないものを取り除いたうえで、資源化することで調整している。

委員：大型生ごみ処理機から出た一次生成物と牛糞を混ぜ、たい肥化に成功しているため、落ち葉と一次生成物を掛け合わせることでたい肥化になるのではないか。

委員：4-3-1 の使用済み紙おむつの資源化について、「使用済み紙おむつのリサイクル推進に向けた実証事業」に協力したとあるが、想定している今後の展開を説明いただきたい。

環境政策課担当課長：実証事業の検証内容は、家庭から排出されるおむつを対象とし、排出世帯割合の把握や、異物混入への効果的な啓発方法、効率的な収集・運搬方法の検討であった。実証事業の結果としては、大人用紙おむつの収集量が想定よりも少なかったため、排出実態等の調査を行うことを予定している。リサイクルについては、リサイクル施設が近隣にないので、国や東京都、他市と情報共有しながら検討していきたい。

会長：使用済み紙おむつのリサイクルについては、次回の審議会で改めて報告いただきたい。

＜基本方針 5 について、施策番号 5-1-1 の評価内容および 2022 年度の事業計画内容、事前質問シートの内容を取り上げ、環境政策課長から説明＞

《意見》

委員：5-1-2 の災害廃棄物の仮置場について、現時点で候補地は設定されているのか。

環境政策課長：約 30 カ所の仮置場候補地を設定しており、毎年 10 カ所程度現地確認を行っている。

2. 報告

2021 年度のごみ量の推計値について

＜資料 2 の内容について、事務局から説明＞

《意見》

- 委員：ごみ量資料については、2019年度以降の数値の推移を提示いただきたい。
委員長：次回の審議会資料では、数値の推移も提示いただきたい。
- 委員：ごみ量全体を削減するために、年度ごとに施策の目標値を決めて毎年度積み上げる必要があると考える。数値目標に対する達成状況を毎年度確認し、結果を分析する必要があるのではないか。
- 環境政策課：2021年度の実績値については、次回の審議会で確定値として報告させていただく。また、2025年度までの各ごみ量・資源化量の目標値に対する進捗率についても審議会で報告させていただく。
- 委員：進捗率で管理するのではなく、年度ごとの数値目標を設置し、目標値に達しているのか、計画どおりに進んでいるのか、ということを確認し分析する作業が必要になるのではないか。
- 委員：評価の方法については、基本方針ごとに総合的に評価を行うのか。
環境政策課：基本方針ごとに総合的に評価を行っていただきたい。
- 委員：ごみ量の傾向については、他市との比較も行ってもらいたい。
委員長：他市との比較については、集約に時間を要するため、最新の数値での比較は難しいと思われる。
- 委員：ごみ量の傾向について検討いただく際には、「レジ袋の有料化」がごみ量に与えた影響についても分析していただきたい。
委員長：次回の審議会資料でご提示いただきたい。
- 委員：審議会資料について、取組経過や改善点などで数値化できる部分は数値化し提示いただきたい。
委員長：次回の審議会に向け、修正できる部分は修正いただきたい。
- 事務局：次回の審議会は、7月25日（月）を予定しており、町田市庁舎で開催する予定である。
審議会開催後に提出いただく「別紙1：評価・意見シート」については、5月31日（火）までにご提出いただくようお願いしたい。入力用のシートは、後日送付させていただく。
- 環境資源部長：本日は時間が短い中、限られた時間での審議にご協力いただきありがとうございました。また、町田市バイオエネルギーセンターまでご足労いただき、ありがとうございました。審議の中でご意見いただいた、資料の数的根拠については、修正し再送させていただく。また、ごみ減量に向け、

削減量や資源化量の数値を確認し、進捗状況を報告させていただく。2022年 2 月に発生した火災については、収集品目の見直しも含め、検討をしていく。

会 長：終了宣言